

糸数アブチラガマ

アブチラガマは、沖縄本島南部の南城市玉城字糸数にある全長270メートルの自然洞窟（ガマ）です。

沖縄戦時、この自然の洞窟は糸数住民の避難指定場所や、日本軍の地下陣地・倉庫としても使用され、戦場が南下するにつれて南風原陸軍病院の分室となりました。

昭和20年5月1日から軍医・看護婦・ひめゆり学徒が配属され、約600名の負傷兵が運び込まれて来ました。

5月25日の南部への撤退命令により、重症患者が置き去りにされました。その後、米軍の攻撃に遭いながらも、奇跡的に生き残った負傷兵と住民が、米軍の投降勧告に従って、8月22日にガマを出ました。



出口階段



慰霊祭

(毎年6月23日に慰霊碑の前で行っています)



慰霊碑



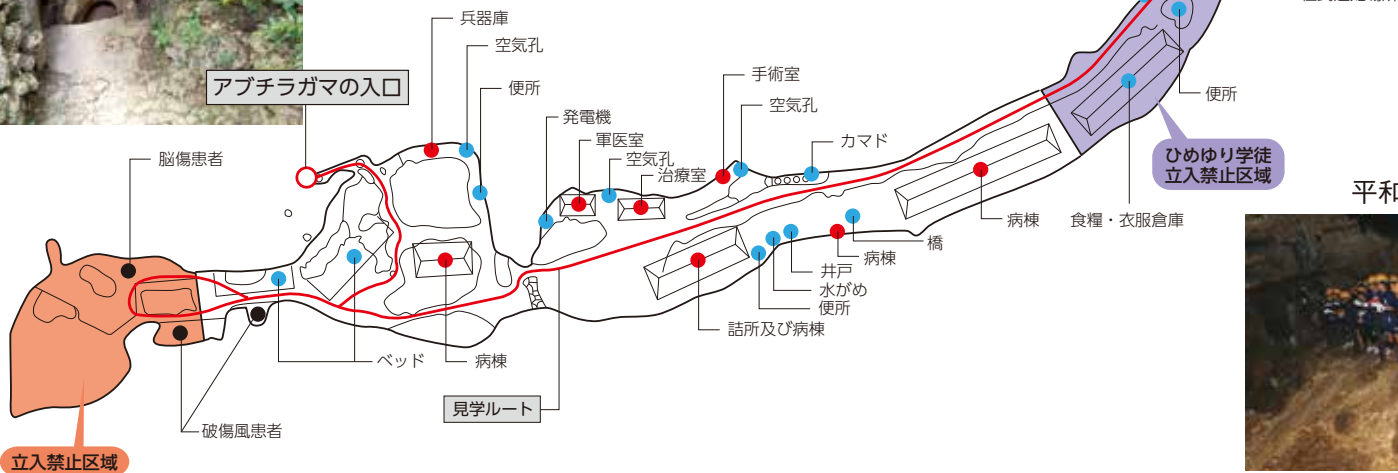
食糧用家畜飼育所



祈念植樹
(生き残った重傷兵の一人)



アブチラガマの入口



ひめゆり学徒立入禁止区域

平和学習の様子



糸数アブチラガマ (平和学習の場)
沖繩戦の実相を現在に伝える
「命どう宝」



遺物



爆風よけの石積



狭い通路



多くの命を支えた貴重な井戸



カマド

沖縄戦の概要

沖縄戦とは、太平洋戦争の最終段階、1945年3月下旬から7月までの戦いを言います。1941年に太平洋戦争が勃発し、太平洋の島々で劣勢となった日本軍は、米軍が沖縄に上陸すると見て、米軍を沖縄にくぎづけにする作戦をとります。それは、本土決戦の準備をするための、時間稼ぎであり捨石作戦でした。このため、沖縄は唯一の地上戦の場となり、住民が根こそぎ動員されました。

米軍は1945年の4月1日沖縄本島中部に上陸し、首里司令部をめざし南下していきます。米軍の圧倒的な戦力に、5月下旬、日本軍は首里司令部を放棄し、南部へ撤退していきます。追い詰められた住民も、南部へ移動し、十数万人の一般住民が「鉄の暴風」に巻き込まれ悲惨な結末を迎えることとなります。

6月23日、牛島司令官の自決により、日本軍の組織的戦闘は終了しますが、その後も各地で戦闘が続き、米軍が作戦終了を宣言したのは7月2日のことでした。

この約90日間にわたる沖縄戦で、日本兵6万6千人、沖縄出身兵2万8千人、米兵1万2千人、一般住民9万4千人が犠牲になりました。当時の県の人口は、約50万人でしたから県民の4人に1人が亡くなったこととなります。

糸数アブチラガマの証言

當山ヨシ 当時17歳

昭和20年3月23日、港川沖から艦砲射撃が始まると、糸数北端にあるスイバンタガマへ避難した。食料もなく、夜から外に出て芋や野菜を食べ、飢えをしのいだ。

5月25日、アブチラガマの兵隊が南部に移動する事を知り自分たちも南部へ行こうとガマを出た。ところが、運悪く米兵に見つかり、右手小指の根元を撃たれた。

米兵は銃を構えて近寄って来たが、女性であることを知ると、これ以上は撃つことはなかった。傷をおさへながら私は母親と一緒にアブチラガマに逃げ込んだ。

ガマの中では、置き去りにされた負傷兵が亡くなると、毛布に包み、死体置き場に運ばれていた。私もランプで足を照らし道案内をした。ガマの中はとても臭かった。私は、怪我をしたことで南部に行かずに、糸数アブチラガマに逃げ込み、命が助かり8月22日にガマを出ました。



入壕料

	大人	小人	減免対象者
個人	300円	150円	50円
団体 (20人以上)	250円	150円	50円

※大人(高校生以上) 小人(小学生～中学生) 減免(障害手帳をお持ちの方)

営業時間

午前9時～午後5時 年中無休(年末年始を除く)
※要予約、入壕・ガイド(約1時間の案内料別途)

交通

- 那覇バスターミナルから市外線51番で約60分
糸数入口バス停下車、徒歩約15分
- 那覇空港より車で約40分
- おきなわワールドより車で約10分

お問い合わせ先(受付)

南部観光総合案内センター
糸数アブチラガマ
〒901-0606
沖縄県南城市玉城字糸数667-1
TEL 098-852-6608
FAX 098-852-6466



糸数アブチラガマ

～平和への願い新たに～



■アブとは…

深い縦の洞穴。

■チラとは…

崖のことで、沖縄の方言で崖が縦に大きく落ち込んだ所をいう。

■ガマとは…

沖縄の方言で洞穴や窪みの事をいいます。沖縄本島中部はほとんどが隆起サンゴ礁でできており、数十万年にわたる雨の浸食によってできた自然の洞窟が各地にあります。

沖縄戦では、この洞窟が住民の避難場所となり、日本軍の作戦陣地や南風原陸軍病院の糸数分室となりました。戦争が激しくなると、ガマは軍民同居の状態になって米軍の攻撃的となり、多くの命が失われることになりました。